

演題名	血清型 O 139 : H - の Vero 毒素産生大腸菌が分離された豚浮腫病の発生例		
発表者 氏名	芳川 恵一	所属	飯田家畜保健衛生所
<p>1997年8月下旬から9月上旬にかけて、小規模繁殖農家で生後60日齢の栄養状態の良好な子豚15頭が、沈うつ、チアノーゼ、眼瞼浮腫及び神経症状等を呈して相次いで急死。そのうちの3頭について病性鑑定を実施。</p> <p>主な病理所見は、胃壁、消化器系付属リンパ節及び結腸間膜等の水腫性変化と、消化管壁及びその付属リンパ節の血管変性であった。細菌検査では、3頭とも小腸内容から溶血性大腸菌が<math>10^4 \sim 10^7</math> CFU/g 分離され、菌の性状は O 139 : H -、K 88・K 99-、LT・ST 非産生株、Vero 毒素陽性、毒素型 VT 2 であった。</p> <p>以上の所見から、本症例を浮腫病と診断。</p> <p>分離菌の薬剤感受性試験では、アンピシリン、オキシリン酸及びエンフロキサシン等に高い感受性を示した。疫学調査の結果、飼料給与状況に変化はなく、8月下旬の猛暑が発生誘因と推察。</p> <p>農家に対する対策として、飼養豚全頭にエンフロキサシンの投与及び飼養環境の改善を指導。</p>			